

カービュー マーケットウォッチ (2012年3月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

5カ月連続で前年を上回り、2カ月連続の30%超プラスに

12年 2月順位	12年 1月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	35,875
2	(2)	→	フィット	ホンダ	24,973
3	(3)	→	アクア	トヨタ	21,951
4	(3)	↓	フリード	ホンダ	13,293
5	(6)	↑	ヴィッツ	トヨタ	11,288
6	(5)	↓	セレナ	日産	10,555
7	(10)	↑	カロラ	トヨタ	6,923
8	(7)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	6,899
9	(11)	↑	ノート	日産	6,742
10	(8)	↓	ヴォクシー	トヨタ	6,293
11	(13)	↑	ステップワゴン	ホンダ	6,054
12	(9)	↓	デミオ	マツダ	5,906
13	(12)	↓	パッソ	トヨタ	5,774
14	(16)	↑	ラクティス	トヨタ	5,706
15	(15)	→	キューブ	日産	5,384
16	(19)	↑	マーチ	日産	4,850
17	(20)	↑	ジューク	日産	4,541
18	(18)	→	ノア	トヨタ	4,435
19	(14)	↓	アルファード	トヨタ	4,353
20	(22)	↑	ウィッシュ	トヨタ	3,719

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■ 5カ月連続で前年を上回り、2カ月連続の30%超プラスに！ プリウスが2月単月として過去最高を記録

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した2月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車総数は44万9285台、前年同月比は131.7%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は51万9626台／前年同月比129.5%）と5カ月連続でプラスとなった。昨年10月から2割増ペースで上向いていたが、今年に入って2カ月連続で3割を超すハイペースとなり、リーマン・ショック前の08年2月と比べても4.7%増と2カ月連続で08年データを上回った。国内の新車販売はエコカー補助金復活などの追い風もあり、完全に勢いを取り戻したようだ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分のみ含む）は28万3154台で、前年同月比は133.4%。メーカーブランドごとの合計では、前月に続きホンダ5万394台／前年同月比147.2%、トヨタ14万5569台／同140.0%と大きく伸張し、全メーカーブランドがプラスとなった。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（α含む）」が3万5875台で9カ月連続トップとなり、前年同月比も87.7%増で、単月の販売台数としては過去最高。2月単月に販売された車種としても過去最高を記録した。2位は「ホンダ フィット（シャトル含む）」で2万4973台、3位には「トヨタ アクア」が2万1951台で前月よりワンランクアップ、「ホンダ フリード（スパイク含む）」は1万3293台で4位、5位は1万1288台の「トヨタ ヴィッツ」となった。上位4車種はハイブリッド車（HV）もしくはHVのほうがガソリン車より売れている車種だが、全体の販売台数が好調だったこともあり、HV比率は前月比1.5ポイント減の30.0%だった。

軽乗用車は14万7494台で、前年同月比129.0%（貨物車を含めた全体では18万6413台／前年同月比125.4%）と5カ月連続のプラス。特にホンダは「N ボックス」が1万5322台と好調で、乗用車部門全体で2万3812台、前年同月比201.8%と昨年の2倍超の売れ行きとなった。車名別では「ダイハツ ミラ（イース、ココア含む）」2万2023台、「スズキ ワゴンR」1万6861台、「N ボックス」、「ダイハツ タント（エグゼ含む）」1万5015台、「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」1万4587台がベスト5で、乗用車全体のベスト10では、3/5ナンバー乗用車（登録車）5車種、軽乗用車5車種が分け合う形になった。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万8124台、前年同月比129.2%と7カ月連続で前年を上回った（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では2万3487台、前年同月比122.7%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が5174台で2カ月連続のトップ。以下、2位メルセデス・ベンツ3035台、3位BMW（ミニを除く）2539台、4位アウディ1618台、5位BMW ミニ1325台と続き、アウディが4.9%増のほか、いずれも2ケタの大幅な伸びとなっている。

■ココも気になる！ その1

フルスカイアクティブ仕様のCX-5で復活を狙うマツダ

昨年は貨物車を含めた総合計で、18万9925台、前年比84.9%にとどまったマツダ。新車販売全体でも前年比85.0%だったから、落ち込み幅は平均的といえるが、06年から4年連続で前年割れが続き、リーマン・ショックから立ち直りつつあった10年に9.4%増と一息ついていただけに、昨年の大震災は生産拠点到直的な被害を受けなかったマツダとはいえ、影響大といわざるを得ないだろう。

そんなマツダの待望のニューモデルが今年2月にデビューした「CX-5」だ。エンジン、トランスミッション、ボディ、シャシーなど、すべてにマツダ独自の環境技術「スカイアクティブ」を採用した初めてのモデルで、特にJC08モードで18.6km/Lの低燃費を実現したクリーンディーゼル車を設定したのが特徴だ。2月はほぼ半月しか販売期間がなかったが、693台と月間販売目標1000台の約7割を達成。発売後1カ月の受注は約8000台と、出だし好調だ。なかでもクリーンディーゼル車が人気を集め、受注の73.0%を占めているという。それだけに納車まで2~3カ月かかっている状況で、新しいエコカー補助金やクリーンディーゼル補助金には予算の限りがあるだけに、納期短縮が売れ行きを占う一つのカギになりそうだ。

「CX-5」は約100カ国に輸出する計画で、すでにロシアでは発売1カ月で年間販売目標の半分にあたる5000台を達成し、北米、欧州、オーストラリアなど海外でも好評のようだ。マツダは国内、海外合わせて年間16万台の販売を計画し、「CX-5」を「アクセラ」、「アテンザ」、「デミオ」に次ぐ基幹車種にしたい意向だが、記録的な円高が続いているだけに、利益確保につながるかがポイント。マツダは国内生産比率が高く、今季の計画でも68.0%に達するほどだが、来年度にはメキシコ工場を立ち上げ、「CX-5」を中国で生産する計画を進めるなど体質改善を図りつつある。「CX-5」の売れ行きとともに、マツダの経営戦略にも要注目だ。

■ココも気になる！ その2

BMWが世界市場で過去最高を達成！

今年2月に基幹車種の3シリーズセダンモデルチェンジしたばかりBMWだが、昨年国内では、グループブランド別にBMW3万4195台/前年比105.5%、ミニ1万4350台/同126.6%、ロールスロイス80台/108.1%と好調だった。世界市場では日本を上回る売れ行きで、BMW138万384台/前年比12.8%増、ミニ28万5060台/同21.7%増、ロールスロイス3538台/同30.5%増と、いずれも過去最高を記録した。

BMWブランドでは、モデルチェンジ前の3シリーズは3.6%減だったが、5シリーズが33万2501台/前年比39.4%増と大躍進。またXシリーズは「X1」、「X3」、「X5」とも好調で、特に「X3」は11万7944台/同156.4%増と前年の2倍超の売れ行きとなった。ミニでは「クロスオーバー」が大ヒット。前年の6倍超となる8万9036台を売り上げ、9月に投入された「クーペ」も年末までに3799台と好スタートを切っている。

日本ではまず 328i がデビューした「3シリーズ」だが、夏前には売れ筋と目される 320i を導入予定。また1月に発表した「X5」のディーゼルモデル、X5 xDrive35d ブルーパフォーマンスの納車も始まった。直6 ツインパワーターボディーゼルエンジンは245馬力を発揮しながら、JC08モード 11.0km/Lを達成。もちろんクリーンディーゼル補助金、エコカー補助金の対象(2つの補助金を同時に受けることは不可)で、価格は839万円と高価だが、「マツダ CX-5」のクリーンディーゼルが人気となっているだけに注目を集めそうだ。

さらに今年はBMW初の4ドアクーペ、「6シリーズグランクーペ」の登場やフラッグシップの「7シリーズ」がモデルチェンジの予定。プレミアムブランドとして、ますますの成長が期待できそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
